

## 統一論題「ロジスティクスを支えるイノベーション」

第37回全国大会実行委員会  
実行委員一同

消費者の商品の購入場所や購入方法の多様化により、商品の配送先は、従来の店舗だけでなく、コンビニエンスストアなど消費者が指定した場所や、自宅などと増えてきている。特に、宅配便の取扱個数の増加傾向から、宅配便を利用した消費者の自宅などへの配送が増えていると考えられる。さらに、運転免許証の返納制度による高齢者の運転免許の保有者数の減少や、過疎化が進んでいる地域における公共交通機関の廃止や減便などにより、日用品を自宅までの配送の必要性も高まってくると考えられる。

このような消費者の自宅などへの配送の増加は、これら商品を配送する物流事業者においては、再配達増加による配送効率低下の課題が生じる。過疎化が進んでいる地域では、それら地域に配送する貨物量減少にともない効率的な輸配送が実施できなくなる課題が生じる。さらに、物流事業者には、貨物自動車の運転手不足の課題もある。

これらの課題を解決するための方法のひとつとして、ロジスティクス活動へのイノベーションの活用が考えられる。たとえば、貨物輸送では、自動運転技術の活用や貨物自動車の隊列走行、およびドローンを用いた貨物輸送のように新技術を利用することで課題解決をはかる方法もあれば、貨客混載による輸送やMaaSの普及など既存の交通機関や情報システムを活用することで課題解決をはかる方法もある。それ以外にも、物流施設では、自動化・機械化技術の導入、ピッキング作業では、音声技術やARの活用、ラストマイル輸送では、ロボットを利用した自宅までの搬送や置配、コンビニエンスストアや駅前などへの宅配ロッカーの設置など、様々な方法が検討もしくは実施されている。すなわち、これらイノベーションの活用により、先に示した課題が解決できる可能性がある。

そこで、第37回日本物流学会全国大会では、統一テーマを「ロジスティクスを支えるイノベーション」として、ロジスティクスの課題解決のためのイノベーションのあり方、およびイノベーションの活用方法について議論していきたい。

### ○日本物流学会 第37回全国大会(2020) 実行委員会

大会委員長 苦瀬 博仁 (流通経済大学教授)

実行委員長 岩尾 詠一郎(専修大学商学部教授)

実行委員 小川 健 (専修大学経済学部准教授)

実行委員 石川 友保 (福島大学共生システム理工学類准教授)

実行委員 味水 佑毅 (流通経済大学流通情報学部准教授)

実行委員 長田 哲平 (宇都宮大学地域デザイン科学部准教授)

実行委員 清水 真人 (大東文化大学経営学部講師)